

JISS *Bulletin*

一般社団法人スウェーデン社会研究所 所報 第 373 号



Tuukka Ervasti/ imagebank.sweden.se

【スウェーデンの点描】ルーフトップ・ハイキング・ツアー

ストックホルムのガムラ・スタンでは、その古い街並みを屋根の上から楽しもうというルーフトップ・ハイキング・ツアーが旅行者の間で密かなブームになっています。

これはガムラ・スタンのすぐ隣にあるリッターホルメン島の旧国会議事堂を屋根の上まで上り、地上 43 メートルから壮大な景色を（足元を震わせながら）楽しむというものです。

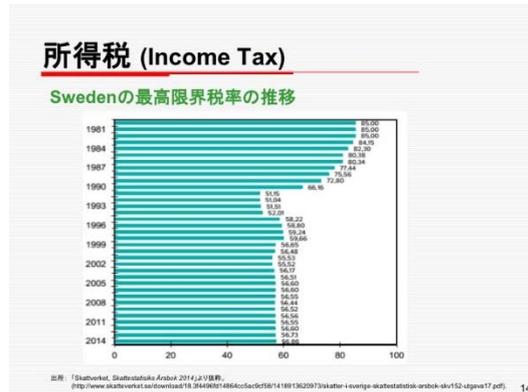
ツアーを運営する Takvandring (Tak=「天井」+vandring「歩き回り」) 社は、ストックホルムだけでなくスズヴァールでも同様のツアーを行っています。

なお同社のサイトには、ツアー参加時の注意点として「セルフイー棒は危険なので持ち込み禁止」としていますので、参加をお考えの方は、要注意！

【2016年4月研究講座】福島 淑彦 早稲田大学政治経済学術院教授
「スウェーデンの税金は本当に高いのか」

スウェーデンの税金は高く、社会福祉が充実しているというのはとても有名です。確かに、スウェーデンの消費税である付加価値税は一般財に対して25%、さらに所得税の最高限界税率は56%と高いです。このように税負担が大きいと、国民は消費を抑え、それにより生産量が減少し、結果としてスウェーデンの景気や国際競争力は低迷するのではないかとこの考えが生まれます。しかし、スウェーデンの国際競争力は過去7年間、国際社会において上位であり、日本よりはるかに高いのです。

現在、スウェーデンの所得税における最高限界税率は56%ですが、所得税改革以前は66%、最も税率の高い時期は1981年の85%でした。



国際競争力

IMD Ranking	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
1	スウェーデン	シンガポール	香港	香港	スウェーデン	スウェーデン	スウェーデン
2	香港	香港	香港	香港	スウェーデン	スウェーデン	スウェーデン
3	シンガポール	香港	シンガポール	スウェーデン	シンガポール	シンガポール	シンガポール
4	スウェーデン						
5	フィンランド	オーストラリア	オーストラリア	オーストラリア	オーストラリア	オーストラリア	オーストラリア
6	オーストラリア						
7	オーストラリア						
8	オーストラリア						
9	オーストラリア						
10	オーストラリア						

WEF Ranking	2009-2010	2010-2011	2011-2012	2012-2013	2013-2014	2014-2015	2015-2016
1	スウェーデン						
2	スウェーデン						
3	スウェーデン						
4	スウェーデン						
5	スウェーデン						
6	スウェーデン						
7	スウェーデン						
8	スウェーデン						
9	スウェーデン						
10	スウェーデン						

税負担が高くても、高い国際競争力を維持しているスウェーデンという国はどのように成り立っているのでしょうか。福島先生に、スウェーデンの税制、社会福祉制度からの便益、持続可能な社会福祉制度という観点から説明していただきました。

<スウェーデンの税制>

日本よりも20年前に導入された付加価値税は一般財25%、生活必需品12%、書籍・新聞・個人の交通費6%に分類できます。消費税の導入当初から税率25%だったわけではなく、所得税負担軽減を目的とした1990年の所得税改革により、付加価値税は25%に引き上げられました。

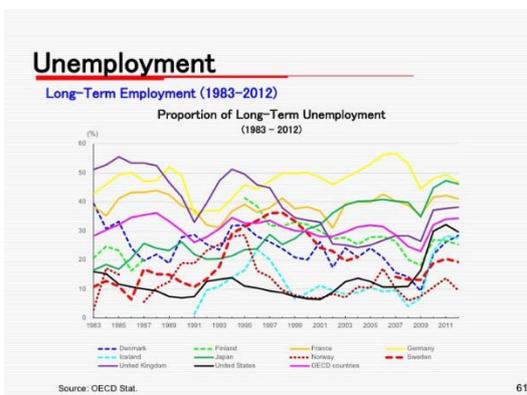
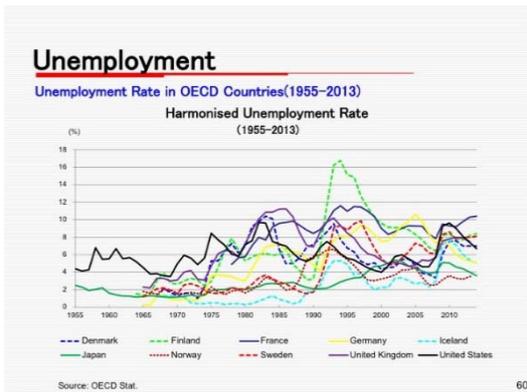
所得税 (Income Tax)

所得税の特徴

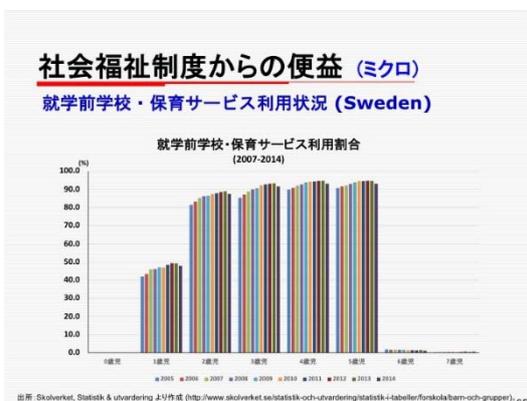
- 課税ベースが広い
通常の勤労所得、老齢年金、失業手当、疾病給付 社会保障による所得給付(税込みで支給)
- 所得控除項目が少ない
日本: 基礎控除、配偶者控除、扶養控除、社会保険料、給与所得控除
Sweden: 基礎控除、通勤費控除、私的年金掛け金控除のみ
2012年(1SEK=¥13.5)
通勤費控除利用者: 労働者の約16%、控除金額平均: 14800SEK(約200000円)
私的年金掛け金控除: 労働者の37%、控除金額平均: 5700SEK(約77000円)
(上層: 12000SEK(約162000))

スウェーデンには、比較的安く設定されている税もあります。それは法人税(9%)です。北欧諸国とヨーロッパとは陸続きで、地理的な移動が容易です。そのため、法人税が近隣諸国と比べてあまりに高いと、企業は法人税の低い近隣諸国へ移動してしまう可能性があります。企業の他国への移動は雇用の減少を意味します。つまり、法人税を低くすることによって雇用機会の減少を防いでいるのです。

スウェーデンでは、利益に課税される法人税のほかに、企業は社会保障費の財源と



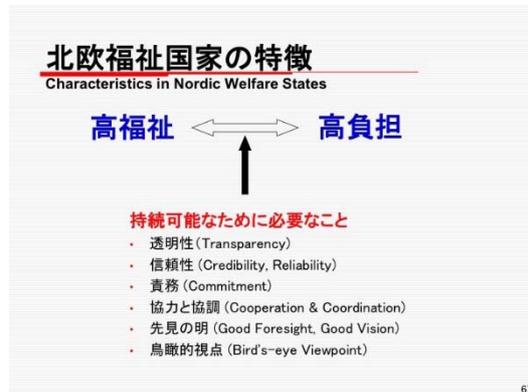
保育サービスに関しても、子どもの人数が増加するにしたがってその負担は軽減され、4人目以降は無料で就学前学校に通うことができます。また、保育所サービスと同様に学童保育の利用が可能です。スウェーデンでは保育サービスを利用する家庭は9割を超えます。



<持続可能な社会福祉制度>

スウェーデンの高福祉、高負担を効率的

に機能させる鍵は、制度の透明性、そして国民からの信頼です。



年金記録という点において、スウェーデン政府は年金保険料を納めた者に対し、年金口座の残高に加え、将来引退した時の受け取り年金予定額が記載された書類を年に一度送付しています。将来いくらの年金を支給してもらえるのか、政府からきちんと情報を受け取っているスウェーデンの国民に対し、その情報を十分に受け取ることのできない日本国民が政府に対して懐疑的になるのも無理はありません。

更にスウェーデンでは、すべての労働者に確定申告が義務付けられています。これにより、自分自身が納めた税金や社会保険料の額を自覚し、納めた税金がどのように使用されているのかに関心を抱く国民が増えます。その結果、自国の政治に対する関心が高まるのです。そこに政府の透明性と責務が伴えば、国民と政府の間に良好な信頼関係が生まれます。

透明性 (Transparency)
 腐敗認知指数のランキング (Corruption Perceptions Index, CPI, Max=100, Min=0)

Ranking	Country /Territory	Score				
		2014	2013	2012	2011	2010
1	Denmark	92	91	90	94	94
2	New Zealand	91	91	90	95	93
3	Finland	89	89	90	94	92
4	Sweden	87	89	88	93	92
5	Norway	86	86	85	90	85
5	Switzerland	86	85	86	88	87
7	Singapore	84	86	87	92	93
8	Netherlands	83	83	84	89	88
9	Luxembourg	82	80	80	85	85
10	Canada	81	81	84	87	89
11	Australia	80	81	85	78	87
12	Germany	79	78	79	80	79
12	Iceland	79	78	82	83	85
15	Japan	76	74	74	80	78
100	China	36	40	39	36	35
174	Korea (North)	8	8	8	10	N.A.
174	Somalia	8	8	8	10	11

国際NGO組織Transparency Internationalが毎年発表している「腐敗認知指数」(Corruption Perceptions Index)

<今の日本に必要なこと>

日本の現状は、社会全体の厚生を最大化ではなく、各政策主体が自身の利益の最大化を行っております。これを助長する一要因は、国民の政治に対する無関心であり、その結果が低品質な政治家が多く選挙によって選ばれるという現状です。

信頼性と透明性のあるスウェーデンでは、

国民は老後に備えて個人が積極的に貯蓄を行うことはしません。つまり、消費をしているのです。消費が減らなければ、生産は安定し、国際競争力を保つことができるのです。

今の日本は、スウェーデンのこうした仕組みを学ぶことが賢明ではないでしょうか。

- 透明性 (Transparency)
- 信頼性 (Credibility, Reliability)
- 責務 (Commitment)
- 協力と協調 (Cooperation & Coordination)
- 先見の明 (Good Foresight, Good Vision)
- 鳥瞰的視点 (Bird's-eye Viewpoint)

[記録者:]

明治大学国際日本学部3年 藤本侑佳]

【2016年5月研究講座】 エーミル・オストベリ氏
「認知症ケアと高齢者福祉～スウェーデンモデル～」

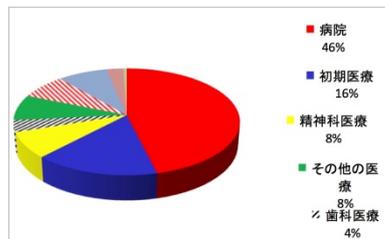


スウェーデンでは、高齢者のための福祉も充実しています。そのシステムを社会経済的な状態を問わず、すべての人が同じように、幅広く利用しています。今回の講座ではエーミルさんにスウェーデンでの認知症・高齢者ケアについて説明していただきました。

＜行政組織ごとの福祉＞

スウェーデンに特徴的なのは、国会が法律を定め、21のランスタング（県）が医療ケアを行い、290のコミュニティ（市町村）が高齢者・障害者・児童のケアを行っているということです。このように役割が分かれていることで、それぞれの自治体が責任を持ってサービスを提供することができます。ランスタングの予算は、46%が病院に組み込まれており、コミュニティの予算を見ると、高齢者ケアが19%で最も多くなっています。

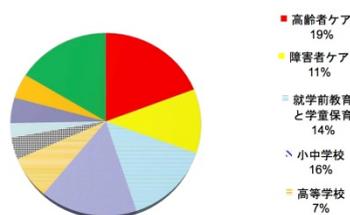
ランスタングの予算 (2012年)



総支出: 2700 億SEK



コミュニティの予算 (2012年)



総支出: 5290億SEK

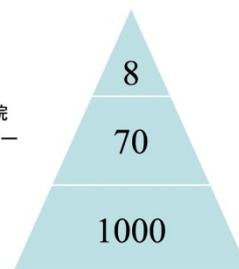


＜医療の組織＞

医療において、なるべくアットホームな環境で過ごすことが良いというのがスウェーデンでの考え方です。

医療の組織

- 8 総合大学病院
- 70 ランスタングの病院
- 1000 初期医療ケアセンター



1985年に比べて、病院のベッドの数も4分の1程度に減っています。また、初期医療が最も重要だとされており、初期医療セ

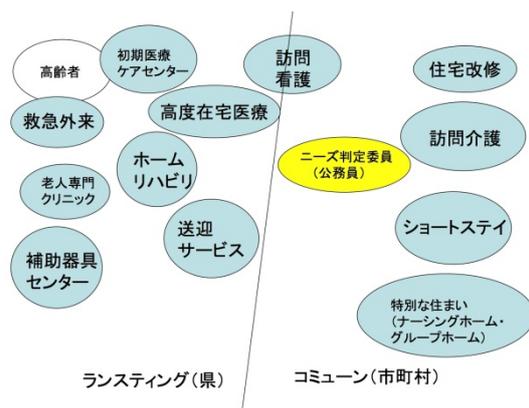
インターの数は、病院に比べてとても多くなっています。

<高齢者の生活・ケアについて>

スウェーデンでは日本と同様に、大体 60 代で退職をします。退職後、元気な高齢者は、旅行をしたり、孫の世話をしたりと楽しめます。

平均年金額は、13,925SKE(日本円で約 17 万円)です。80 歳以上の高齢者サービス受給率は 38%で、サービス提供者へのサービス受給者からの評価平均点は 73/100 点と、とても高くなっており、受給者は満足していることがわかります。また、高齢者の約 25 万人が歩行機を利用しており、そのことで転倒リスクが減っているということです。

一人暮らしをする高齢者がとても多く、65 歳以上の高齢者の一人暮らし率は、女性が 50%、男性が 25%となっています。そのような人のために、送迎サービスもあり、公共交通を同じ値段で利用することができます。



ランズティング（県）とコミュニン（市町村）の役割は左下図のように分かれています。公務員であるニーズ判定委員が一人一人の高齢者に対して、どのようなケアが必要か判断します。判断する際も、ニーズ

判定委員は、高齢者になるべく今まで生活していた状況と同じように生活できるように、一人一人の好きな食べ物、趣味、1 日をどう過ごしてきたのかをしっかりと聞きます。

<デイケアセンターと高齢者施設>

1 日 7 回までホームヘルプサービスを受けられますが、それでは介護しきれない時にはデイケアセンター、各高齢者施設へと諸段階を踏んでの利用となります。

・デイケアセンター

事前に職員が一度当該人の自宅に伺い、当人と家族との面談を行う、という手順を踏みます。今までの人生についてお伺いし当該人の好みなどを知っておくことで、個別に対応したケアを可能にしています。

1 日の流れとしては、まずみんな一緒に朝食をとります。その後、遊んだり散歩したりという時間を過ごします。昼食の時間にはカロリーの高いものを摂取する傾向にあります。認知症の方は栄養失調になりがちという背景があるためです。そして、だいたい 14:30 のおやつ時間の後、帰宅するというものになっています。

・グループホーム、ナーシングホーム

部屋はすべて個室となっています。介護ベッドは備え付けの物を使用することができますが、それ以外の家具は自らの物を持ち込むことが可能です。これによって、認知症の人が起きたとき自己を認知する効果を促しています。シャワー付きトイレ・洗面所も各個室に装備されており、必要性に伴ってリフトなどの介護器具も備え付けることとなっています。ない場合は違反とみなされてしまいます。

1日の過ごし方は、デイケアセンターとは異なり、朝食時間の規定もなく好きなものを食べるといったように、その形は自由なものといえます。

居室(個室)



SQC
Swedish Quality Care

シャワー付きトイレ・洗面所



*各居室についての

SQC
Swedish Quality Care

<高齢者施設でのアクティビティ>

「当該者にとって重要な時間は様々である」という観点から様々なアクティビティが用意・許可されています。

例としてはまず、高齢者施設において、基本的制限なしにアルコールを自由に飲むことができます（認知症の方には指定日のみ、などの少ない制限がある場合あり）。危険と思われる方もいるかもしれませんが、スウェーデンの高齢者施設では、「その人の最後の時を楽しく過ごせるように」という考えを大切にしています。また、他にもコーヒーやケーキを好きなだけ食べることが

できるというシステムもあります（認知症や、当該者の状態によっては例外となる）。高齢者施設においても、自分で決定し、今までと同じように生活することができるのです。

<外国人介護人材>

外国人介護職員の割合は、ストックホルムにおいて50%、同じく医療職員はスウェーデンにおいて25%を占めており、外国人が介護・医療の分野において活躍していることが伺えます。外国人医療関係者のためにスウェーデン語を学ぶ研修が用意されており、彼らが働くことを可能にするシステム・環境が整えられています。

<介護現場の在り方>

現在、日本でもスウェーデンでも、介護士の将来が心配されています。このままではその数は少なくなってしまうのではないかと懸念されているのです。そこで、働く側に関しても、働きたくるように楽しい現場づくりが必要になってくると考えられます。スウェーデンでは、介護士の6時間労働といった形や給料を上げるなどの考えが生まれており、日本においても今後、介護職員の労働環境に関しても考えていく必要があるのではないのでしょうか。

[記録者：明治大学国際日本学部3年
五十嵐楓 佐々木栞那]

【2016年6月研究講座】 マグヌス・ローバック駐日スウェーデン大使 「スウェーデンと日本の関係～移民・難民政策を中心に」

6月9日、スウェーデン大使館においてマグヌス・ローバック駐日スウェーデン大使による講演会が行われました。今回は、スウェーデンの移民と難民政策をメインに、様々な観点から日本とスウェーデンを比較しながら話していただきました。

＜日本人とスウェーデン人の共通点＞

始めに、大使は日本とスウェーデンの共通点についてふれました。大使が思う日本とスウェーデンの共通点は、自分たちが **exceptional** (例外的) である点にあるそうです。例えば、スウェーデンは高福祉国家として有名ですが福祉の充実のためには、高い税金を納めるといった国民への高負担が求められます。これを支えるのがスウェーデン経済の高成長です。大使は、高福祉・高負担・高成長の三つをバランス良く両立できるのはスウェーデンだけであると、国民が考えていると指摘していました。これがスウェーデン人の例外主義です。

一方日本人も世界の先進国あるいはアジアの主要国として、日本が他の国とは異なっていると考えている人は多いと言われています。これが日本の例外主義であり、大使はスウェーデンと日本はこの点において似ていると指摘しています。

＜スウェーデン人と日本人の相違点＞

例外主義という共通点がある一方で、日本人とスウェーデン人には相違点もあります。第1に、スウェーデン人は自分たちで社会を変えていく意識が強い点です。スウ

ェーデンでは18世紀にロシアからウォッカが流入し、アルコール中毒になる人々が急増したため、禁酒運動が起こったという歴史があります。このように、自らよりよい社会をつくり上げようとする意識が市民レベルで根付いている点が日本とは異なります。2つ目は、高い税金を自分たちへの投資と考えていることです。これは日本よりも税金の使われ方が明確なことや、政治家への信頼が大きいという背景の違いから生まれたものと思われます。



＜スウェーデンと移民の歴史＞

スウェーデンは元来資源に乏しく、貧しい国であり、日本が明治時代の頃にはより良い生活を求めて、当時のスウェーデンの人口の三分之一がアメリカへ渡りました。現在のように移民受け入れ国へと変化したのは第二次世界大戦後です。特に1980年代から1990年代にかけては、ボスニアからムスリムを含む人々がスウェーデンに移り住みました。さらに1990年代半ばは中東からの移民が、シェンゲン協定に加盟してから

は東欧からの移民が増加しました。そして昨年の2015年には10万人の難民がスウェーデンへ押し寄せ、現在ではスウェーデン人口の16%が外国にルーツを持ち、他国のバックグラウンドを持つ人が当たり前のよう生活している社会となっています。ただし、国内では移民を多く受け入れ過ぎたと、問題視する見方もあります。

<スウェーデンと移民・難民問題>

それでは、なぜ移民や難民を多く受け入れることが問題なのでしょう。それは、スウェーデンの社会保障政策の崩壊につながる恐れがあるからです。スウェーデンの手厚い社会保障は高い税金によって賄われていますが、移民や難民が増えれば彼らへの支援として税金が使われ、従来の社会保障制度を維持するのは困難になるでしょう。

大使は、移民や難民に関して三つの問題点があるといます。一つ目は、「多くの移民や難民を受け入れ、彼ら全員に安全な暮らしを保障できるのか」、二つ目は「スウェーデン社会の適合は可能であるのか」、三つ目は「スウェーデンはアメリカのような多文化・多民族国家になるのか」です。移民や難民の増加により従来の福祉が崩壊し始めていると考えている右派の人々が移民排斥運動を起こしているのも事実です。

<移民の統合>

けれども近年の移民増加により、様々なバックグラウンドを持つ人が増え、移民政策の方向性が改めて見直されているのもまた事実です。最近でも、ある女性ジャーナリストがムスリムの男性議員に握手を求めたところ、拒否されたというニュースが大

きな波紋を呼びました。いまや男女平等はスウェーデン社会にとって中心的な価値観であり、たとえどのような宗教を信じていても、スウェーデンに暮らす者はそれを受け入れなければならないということが、あらためて確認された出来事でした。

実際に、大多数の移民はスウェーデンの文化を受け入れています。が、まだまだ増え続ける移民に対して更なる統合政策が必要とされています。



<日本とスウェーデンのこれから>

今後スウェーデンはどのように変わっていかなければならないのでしょうか。大使は、より民主的で男女平等でなければならないと語りました。スウェーデンだけでなく、日本にも問題は山積みです。例えば、女性の就業率が高いスウェーデンから見ると、日本では女性の就業についてあまり深く考えていない、特に女性自身が変わろうとする姿勢が見られないと大使は指摘していました。両国とも、今後どのように変わってくるかが重要になりそうです。

[記録者:]

明治大学国際日本学部3年 林楓 柳元まりあ]